

**CHUOH**  
知っ得通信 **TRY+ANGLE**2020年10月20日発行 編集・発行:中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>**中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.104****< 社会的常識を知って塾運営をしていくこと! >**

コロナ禍で色々な産業に影響が出て、この冬は、非常に厳しい状況になるかもしれません。どうしても、マーケットを理解して、冬期講習等の設計をしなければならぬと思います。しっかりマーケットの状況を把握しておくことです。

さて、社業が思わしくない学習塾の特徴の一つに、社会的常識や社会通念の理解不足があるように思います。なぜ、教育業界や学習塾業界では、そのようなことは起こり得るのか。それは、日々の仕事子どもを相手にする仕事だということもあって、大人の集団に日々入っているわけではないこと、子どもを指導する集団は、教育空間という特殊な空間なので、社会の常識や通念を意識して運用しなくても許されることが多いこと、これらのことが要因となっていると思います。ですから、教育業界、学習塾業界では、自身が意識していないと社会的常識や通念が中々身につかないということになるのです。

そして、そういった社会的常識や通念を深く理解していないで学習塾を経営することになると、競合状況や経済状況の変化によって、社業に大きな影響が出るようになります。マーケットが吟味の質を変えるからです。

まさにコロナ禍は、学習塾を吟味する土俵に変化を起こさせたのです。「この塾は、しっかりした対応をしてくれるのか?」、「私の子どもを任せるに値する塾なのか?」と吟味を強くしたのです。

この吟味に耐える下地が経営者の社会的常識に対する理解の質、社会通念に対する理解の質です。「普通は、こういう風に考えるだろう」とか、「当然、このようなことに配慮をしているだろう」と、思っている保護者の常識と塾の常識が大きくずれていけば、吟味の土俵では、選ばれることはないのです。この積み重ねが、社業を右肩下がりにしていくのです。

ここで、もう少し具体的な事例を紹介します。来春、新卒を初めて取る顧問先の事例です。最近の内定式は、大概10月1日です。うちの会社に来るのか来ないのかを明確にするために内定式は行い、ここで踏み絵を踏ませるので大概は同じ日にやるのです。ただし、小さい会社は、あまり気にしなくても良いので、この顧問先は私の訪問に合わせて内定式を行い、式の後に研修を行うことにしました。ここまではOKです。新卒を取るのも初めて、内定式をやるのも初めてなので、ここで問われるのが、社会的常識なのです。当日、どんなプログラムを組むか、ここが問われるのです。

当然、何も知らないのですから、調べます。または、同じような式典を参考にします。同じような式典なら、どんなものがあるだろうか?そう思って、自分が参加したものはあるのか。どこかで見たことはないのか。色々考えるわけです。この考える基盤が、社会的常識なのです。

普通なら、入学式や卒業式を参考にするはずですが。また、ネットを調べれば色々な会社の内定式や入社式の情報が出てきます。それらを参考に当日のプログラムを自分なりに作って、社員と吟味して、完成ということになります。

この顧問先は、このプロセスを行っていないようでした。それは、社外の人(私)がその式に参加することに対する配慮がなかったからです。内定式の2、3日前に初めてプログラムが送られてきて、これで良いですかとメールが来ました。私が内定式に参加するのかもしれないか、明確ではありませんでした。物理的には、参加しないことは考えられないのですが、社外の人を招いておいて、来賓の挨拶がありません。どの立場で私は内定式に出るのでしょうか。そして、内定式後の研修時間が2時間もありません。それまで全く打ち合わせもないまま、2、3日前に研修時間は2時間です!的なメールが来るだけです。これで、良い研

## 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.104

修が会社として出来るというのでしょうか。これまた常識の範囲で考えれば、わかることです。研修をするのは私ですが、研修が良いものになるかどうかの責任は、会社にあります。会社のお膳立てで、研修結果は大きく変わります。このことが理解されていませんでした。社会的な常識に照らし合わせた行動がとれないのです。その他にも突っ込みどころの多い内定式になったわけですが、ここでは、これ以上は触れません。当日、しっかり反省を促しておいたので。

経営は、自分の考え一つで出る結果が違います。その考えの基盤が、社会的常識や社会通念に対する理解なのです。ここでもう一度、自分の社会的常識や社会通念の理解はどうか振り返り、冬期講習に臨んでください。

【編集後記】

＼成功する学習塾経営とは？／

「学習塾専門」コンサルタント二人が、with コロナ時代の塾繁栄法則を伝授！

MBAセミナー第2回「1校舎 3000万円売り上げる塾を創る」

■第1講座「経営計画をつくれればゴールにたどり着く！」

(講師 柴山 健太郎 氏株式会社 Freewill トータルエデュケーション 代表取締役)

■第2講座「塾のミッションの再定義～プレイングマネージャーとしての在り方～」

(講師 中土井 鉄信)

■日程と開催場所

★大阪 10月25日(日) 大阪国際会議場

★福岡 11月1日(日) 天神クリスタルビル

■開催時間

10:00～17:00

↓各講座の詳細、セミナーへのお申込みはこちら↓

<https://management-brain.net/mbaseminar02/>

## 数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.68

10月も下旬となりました。大学を目指す皆さんの受験勉強も佳境に入る時期ですが、全国大学生生活協同組合連合会(全国大学生協連)が高3の受験生を対象に面白いアンケート調査を行っていますので紹介しましょう(同会/「アンケートで集める受験生の“今”」)。

以下、10月アタマ時点までの高3生の回答です(調査は6月から進行中/本調査の結果発表は10月3日)。

### Q:「現在の平均の勉強時間は1日何時間ですか？」

1時間	・・・	6%
2時間	・・・	11%
3時間	・・・	20%
4時間	・・・	15%
5時間	・・・	14%
6時間	・・・	11%
7時間	・・・	4%

8時間	・・・	7%
9時間	・・・	5%
10時間	・・・	3%
11時間	・・・	2%
12時間	・・・	1%
それ以上	・・・	1%

注記はされていませんが、「学校での授業時間とは別に何時間？」ということでしょう。最も多いのが「3時間」の20%、次が「4時間」の15%、その次が「5時間」の14%。おおよそ5割の生徒が毎日3時間～5時間、勉強しているんですね。

ちょっと驚くのは「9時間」以上が12%も…。

大雑把に見積もると、日々の生活には、学校に7時間、通学に1時間、睡眠、食事、その他に8時間、最低でも合計16時間は必要のはず。残りは8時間。一体どこから9時間以上もひねり出しているんでしょう。ずいぶん昔、「4当5落」という言葉がはやったことがありました。睡眠時間が4時間ならば合格、5時間では不合格という意味ですが、バカげた迷信です。睡眠時間を削るのはお勧めできません。

なお、本調査は学校がようやく再開された6月から行われています。リモートを継続していた塾も多かったので、それが勉強時間に影響したのかもしれませんが。

# 数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.68

## Q:「どんな勉強をしていますか？一番時間をかけているものを選択してください。」

得意教科	7%
苦手教科	39%
暗記	14%
過去問	5%
問題集	29%
その他	5%

勉強の中身を尋ねているのか、教材を尋ねているのか、はたまたやり方を尋ねているのか、回答者が混乱するような選択肢が並んでいますが、ここでは「苦手教科」と「得意教科」に注目しましょう。

「苦手教科」が39%、「得意教科」が7%。

「得意教科」のウエイトが低すぎる、あるいは「苦手教科」のウエイトが高すぎるとは思いませんか。

これでは受験勉強が全くの難行苦行になってしまいます。難行苦行では効率は上がりません。「苦手教科をなんとかしないと…」という気持ちはわかりますが、もう少しバランスを考えたほうがよさそうですね。

## Q:「勉強場所はどこですか？」

自宅	62%
塾	21%
学校	12%
図書館	3%
カフェ	1%
その他	1%

意外に「塾」は少ないんですね。まあ、高3の受験生全員が塾に通っているわけでもありませんし、さらに塾に所属している生徒といえども週7回、通塾しているわけではないでしょうから、妥当な数字なのかもしれません…。

とはいえ、可能ならばですが、わたしは塾での勉強をお勧めしたいと思っています。そして塾事業者の皆さんには「自習室」の設置をお勧めしたいと思っています。

勉強する上で一番大切なのはやはり「学習環境」でしょう。そこに来れば無理なく自然に勉強に打ち込める、切磋琢磨する仲間がいる、黙って見守ってくれるヒトがいる—教えるだけでなく、そうした「環境」を作っておけるこ

とが塾の大事な仕事ではないでしょうか。

しかし、これも塾の多くがリモートをしていた影響かもしれないですね。

## Q:「あなたはどのようにして勉強の合間にリフレッシュしますか？」(複数回答)

音楽を聴く (歌詞有)	20%	散歩	3%
動画を見る	16%	とにかく食べる	3%
寝る	13%	運動	2%
甘いものを食べる	9%	映画	2%
友達と話す	9%	楽器	2%
テレビ	7%	料理を作る	1%
運動 (軽いもの)	5%	カラオケ	1%
音楽を聴く (歌詞無)	5%	その他	2%

やはり「音楽」ですね。歌詞のあるものとないものとを合わせると25%。次は「動画」。You Tubeあたりでしょうか。これが16%。その次が「寝る」で13%。「テレビ」は思ったよりも少なく7%。時代ということでしょう。ところで「電話」というのが出てきませんでした。それもそのはずで、質問フォームをみると選択肢に入っていませんでした。「友達と話す」9%に含まれているんでしょう。

大学進学者が5割を超え、入試が複雑化してくるにつれ、塾教師の役割も変わってきました。

ここ10年ほどで、「教える」に加えて「ナビゲート」、これが塾教師の仕事の重要な要素を占めるようになっていきます。

さらに、今回のコロナ禍で「動画映像教材」が津々浦々まで普及浸透。この先はティーチングよりもナビゲーションの方が大事な仕事になっていくのかもしれない。

塾教師は、情報収集や情報提供はもとより、勉強時間や勉強する環境、勉強の仕方、学習計画の立て方までを指導する「教育・進学・学習の総合ディレクター」に—すぐにもそんな時代がやってくるのではないかという気がしています。

PS・コンサルティング・システム

小林 弘典